時事新報

明治十八年九月廿一日(月曜日) 舊乙酉八月十三日 つちのと、う (西暦一千八百八十五年)

出 入 午前 五時四十八分 / 午後 五時五十八分
月 出 入 午前 二時三十五分 / 午後 四時十二分
滿 潮 午前 三時二十二分 / 午後 三時五十二分

時事新報定價 (日曜日バカリ休刊)
一枚金三錢○一箇月前金六十五錢○三箇月前金一圓八十錢○六箇月前金三圓四十錢○一箇年前金六圓五十錢○郵便稅一箇月金廿六錢 一箇年金三圓十二錢○左ニ掲クル各地ニ於テハ郵便稅ニテ配達致候
東京 橫濱 橫須賀 從神奈川至小田原驛 函根七湯 大坂
京都 大津 神戸 尾ノ道 岡山 堺 岡山 廣島
和歌山 德島 高知 下ノ關 名古屋 岐阜 岡崎 豐橋
四日市 津 松坂 山田 仙臺 福島 二本松 若ノ松
函館 青森 弘前 宇都宮 高崎 八王子
其他同地近傍ノ驛ニ於テ高崎ニテ配達スル料金ハ不申受候

時事新報廣告料(前金)一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上六日迄	七日以上十五日迄	十六日以上廿日迄	卅一日以上
自一行至十行	十錢	八錢	六錢	六錢	四錢
自十一行至三十行	九錢	七錢	六錢五厘	五錢五厘	五錢
自三十一行至五十行	八錢	六錢五厘	五錢八厘	五錢五厘	四錢六厘
五十一行以上	七錢	六錢	五錢五厘	五錢	四錢

時事新報

東京市中の牛乳改良法

西洋學問は漸次第に日本國に傳はるに連れ、事物百般の改良説も起り就中、食物改良論の如きは日增し勢ひを占めて野菜禾穀は滋養物に非ず須らく肉食を奬勵して日本人の體格を堅固にすべしと人々口に唱へ身に行ひ日本人民の食物次第に變化せんとするの大に滿足に堪へたる次第、隨て牛乳の如きも人生滋養の第一品なりといふ處より人々多くこれを飲用し近來この東京府下に於てもろの需要高は日に月に增加しあれを四五年以前に比較するに實に非常の增進と見たるは甚ぞ結構の事にはあれど右需要の增加と與に各營業人等はたゞ目前の小利を射るとのみ目的とし、ろの乳牛に與ふる飼料の如きは獨りその良質を擇まざるのみならず單に價段の廉なるを狙ふの餘り故さらに性質不良の飼料を與へ或ぞその飼料をば充分にせずして只管乳の搾取を務むるが故日々東京の市中に配ばり廻る牛乳の中には滋養質の代りに却て人身に有害なる成分を含むも少からずとか云ふ者あり斯ては市民の健康に取りてその儘には打捨て難き事情もあり既にろの筋の人々も此邊に注目し府下の乳牛飼養法を改正せざる可らずなど主張し居る者のある由に聞及びしが是れ實に然るべき事にて此害は彼の牛乳の中に米の白水を混せるといふ惡事よりも尙は一層衞生の障りとなるべし又乳牛に與ふる食物の斯く不良なるに附加へて其飼養法の如きも府下十五區の市街中、人家稠密の間に僅り猫額大の空地を畜して之れに數頭の乳牛を押込先置くが故牛は恰も禁獄同然の有様、ひろ〳〵としたる郊野に逍遙し青天白日、新鮮なる空氣を呼吸して生活する乳牛ならば良質の乳も出づべきなれど身動きもならぬ狹き地内に蟄伏して腐敗したる空氣を吸ひ剩へ不良の飼料を宛行はれ夫れにて命を繫ぐ乳牛ゆゑに迚も充分滋養になる牛乳の搾らるゝ道理は無きなり故に我輩の望む所ぞ府下の乳牛飼養法を改良しあれに充分の食料を供すべきは勿論、ろの飼養地の如きは東京朱引外に於て新に場所廣濶なる牧場を撰へ乳牛に良き空氣と善き運動とを與へて成る丈良質の牛乳を搾取することを務めたきものなり尤も牛乳搾取所が遠く朱引外の田舍に引移りては日本橋とか神田とかいふ中央都會に住する人々は毎朝乳の配達方が遲れりて迷惑すべし杯いふ苦情もあらんなれど夫れは無益の心配、即ちその方法と申すは右都會中央の各區には朱引外の搾取所より夫々出張店を設置ておいまでは馬車の人力車にて至急に送屆けサテ此處より更に配手を出して得意先へ今の如く分配し歩行かば何にも遲はる筈なきなり然るに目今の有樣にては下表にも掲げある如く神田日本橋京橋などいふ孰れも人家稠密、絶て明地の無きその間とせり拔けて五軒乃至九軒の牛乳搾取營業所ありといふに至りては斯る搾取所の牛乳果して充分の滋養あるべきや如何ん其返答甚ぞ以て覺束なきなり此程其筋にて新たに調査したる統計に據れば昨明治十七年中府下十五區六郡の牛乳搾取營業人は合計二百八人、ろの乳牛の頭數七百二十五匹又搾取石高は四千二百二十八石餘にてあれを前年に比較するに其增加高營業人に於て九十八人、乳牛に於て九十三頭、搾り石高に於て八百九十五石餘なり故に我輩は府下にて牛乳需要高のかく次第に增加するを見て甚だ悅ぶものなれども爰に此悅を表するの序に前記乳牛飼養法改良の思附を述べて該營業者の注意を乞はんと欲するなり今右の統計を各區郡に細別するに

	牛乳搾取營業人	乳牛頭數	搾取石高
麹町區	九人	一一二	七六五、九二三
神田區	六人	二〇	一三三、八〇九
日本橋區	五人	三六	二二一、四三八
京橋區	九人	八四	五六二、三八二
芝區	十一人	九五	三八九、六一四
麻布區	八人	三八	一六五、五四四
赤坂區	四人	二六	一三一、八七四
四ツ谷區	五人	一一	八六、三三〇
牛込區	十人	四七	二七二、三五二
小石川區	三人	三〇	九三、九八九
本郷區	八人	五四	三二〇、八八〇
下谷區	七人	四〇	四五二、三〇七
淺草區	六人	三〇	一七一、三三三
本所區	三人	一〇	五一、六四四
深川區	六人	四八	一三九、一七七
荏原郡	六人	四八	一三九、〇七九
東多摩郡	一人	一	二、五七二
北豐島郡	五人	一九	一二六、九九三
南足立郡	一人	五	二〇、四九六
南葛飾郡	一人	一五	一〇四、二八九
南豐島郡	なし		
合計	二百八人	七二五	四、二二八、八九六

以上の表に據て觀る時は東京府下の牛乳搾取營業人と總計二百八人の中にて六郡に屬する十四人の營業者と引去れと殘る百八十六人は孰れも車塵馬埃の東京十五區中に在て牛乳を飼養するもの日本帝國の首府たるべき此真中に一百八十六箇處の牛乳搾取所ありといふ珍事は偖扨、單に牛乳改良の一點よりして論ずるも右の搾取所は我輩が前記の所論に基き荏原郡なり豐島郡なり市區接近の朱引外にこれと引移し乳牛に新鮮なる空氣と充分なる食料と與へ且ろの運動と縱まにせしむるの大切なるは勿論少しく仕掛けを大にして東京と橫濱の間とか埼玉縣地方とか鐵道の便利ありて水草の供給十分ある場所に搾乳場を設けなば土地は廉く費用は少なく牛も人も健康にして朝夕搾り取りたる牛乳は其都度汽車の便にて東京に送り込み夫れより市中の得意先きに配達そることゝ爲んにそ其利益固より少なからずと思はる兎に角に交通便利の今の東京に於て市塵十丈の其眞中に人と牛と同居するの理由はなき事と信するなり

官報

○大藏省達第六十七號　北海道三縣及府縣　沖繩縣ヲ除ク

醬油醪ノミ貯藏場所等ノ件自今左ノ通リ相心得ベシ

一醬油醪ノミ貯藏スル場所ハ製造場區域外ト雖モ稅則取扱心得書第三項但書ニ準據スベシ

一營業中都合ニ依リ醬油醪ヲ營業者ニ賣渡スハ差支ナシ

但本文ノ場合ニ於テハ賣渡人ヨリ其趣屆出シメ檢査員ノ證明書ヲ添付シ更ニ買受人ヨリ其地ノ檢査員ニ申出檢査ヲ受ケシムベシ

右相達候事

明治十八年九月十九日　大藏卿　伯爵松方正義

○明治十八年九月十八日

敍正五位　從五位勳四等　子爵奥田直明

○從五位子爵奥田直明は昨十八日左の通仰渡されたり

特旨ヲ以テ位階被進候事　從五位勳四等　子爵奥田直明

○虎列剌患者　長崎長崎港ニ於テ去ル十六日虎列剌病新患者十六人新舊死亡者三十四人治療十三人他の郡村に於ては新患者八十四人死亡者三十九人治療十一人なり(長崎縣報告)

山口縣に於ても去月廿三日より同廿九日に至る一週間内虎列剌病患者の屆出は總計十八人内死亡二人治療中七人全治一人なり(山口縣報告)

熊本縣下天草郡虎列剌患者は一昨十七日新患者五十一人死亡三十二人あり(内務省報告)

(以上四件明治十八年九月十九日官報)

雜報

○二百七十五年忌　本年は清正公の二百七十五年忌に當るを以て府下の信仰連は來る廿三日廿四日の兩日に各所にある清正神社へ參詣するよしなり

○堤防費補助金　靜岡縣下天龍川大井川富士川を始先とし其他許多の河々は本年七月の洪水にて堤防を破壞したるが當に臨時縣會にて右修繕費用十三萬圓の原案を三萬五千圓に減額し餘は國庫より補助金を仰ぐことに決議せしより先般關口同縣令は上京の上之を内務大藏兩省へ稟議し三萬五千圓だけ國庫より下附なるべき旨内諭ありしよしなれどもそれにては尙は七萬圓の不足を生ずる次第にて迚ても着手なり難ければ更に增金下附を稟議中なりと云ふ

○前米國領事の報告　去る頃米國の國務卿が各國に在留する米國領事に其國々の勸勞賃銀等の事柄を取調ぶべき旨を命しければ各領事は夫々取調べの上報告書を指出せしが其内に前の橫濱在留米國總領事ヴハンビューレン氏の報告には先つ日本が蒸汽電氣の作用に依りて諸外國と親密なる關係に至りたることを述べて次に府縣會の開設以來地租十圓以上を納むるものは皆其議員たることを得ることとなりたるより大に農民の地位を高めたることを述べ且つ此等の議會は一も立法の權を有せずと雖も自ら地方自治の種子を包蓄するものありと云ひ又日本の商人の數は過る千八百七十五年(明治八年)の人口調べあるに七十萬人とあれ
事する人民も七十萬の倍と
に從事するものは少くも
現數は前記の人員よりは遙
本の絹業に付きて此業は勢
需要と增そ勢あり殊に
して精好なる品物を產出
勸勞の需要と增し隨て其
し由又右の報告中には日本
する器械は極先て粗末な
ツカード(機織器械を工夫
者機と工夫したる人)が
り又日本にてぞ神社佛閣は
流行して爲めに人身の健康
益ありなどとありたりと

○ニューギーネの金山
頭の爭ありし南太平洋
鑛產に富み殊に地質上の
くの金あるべしとの事も
頃濠洲メルボルンの人
巡撿して金鑛あるを發
ゑてメルボルンに送りけ
得て直に一の鑛山會社
ろ二時間計りの中に滿數の
し同島より先年濠洲にて
量の金と出し其節の如く
ならばニューギーナの前
と(本年九月十七日のジヤ

○英獨商人の競爭　英國人
て支那國に商賈の得意に
とあるが日耳曼人は英人
遂に支那と取入りて近年は
又は購求そるにも英國を
軍の教師も日耳曼より雇
に流行するも亦人の能く
日の倫敦支那エキスプレ
在支那の通信者より申越
タ支那人に對する趣と
を抄出そ

前略日耳曼人は上海天津
には言語も支那語を使
立働くものあり例へは
の禮を行ひ又支那政府
と求むれ共其代りに後
分の手數料を支那官吏
北京駐紮の同國公使及
に付ても助力を受くと
文品の周旋を爲そは
ありとて毫も關係せ
勝を占めらるゝも怪し

○伊太利繭况　七月十日附
據れば日本蠶卵紙の同國
るが養成し得たるは僅に
なり元來日本蠶卵紙を以
ド州の二三郡に止れり向
んとするの策は別房論極
く事なるべし本年同國